

特定非営利活動法人縁活 あるきだす（滋賀県栗東市）

●事業の概要

【団体の概要】

- 2009年設立。障害者グループホームの運営、就労継続支援B型事業等を実施。

【事業の概要】

- 築130年の古民家を改修し、農業を中心とした就労継続支援B型事業（定員20名）、日中一時支援事業を実施。地域交流スペースも併設。

【施設デザインの特徴】

- 仕事場 兼 住まいとして利用されてきた民家の空間構成（四つ間、土間、通り庭、縁側、庭）を、障害者と地域住民の居場所に再構成。
- 母屋と切り離された“離れ”が利用者の居場所空間となることで、イベント・交流時に地域と障害者が無理なく交流できる仕掛けづくり。



●解決を目指す地域課題

- 栗東市は田畑も多くのどかな地域であり、「便利な田舎」として都市圏で働く人のベッドタウン。施設が整備された金勝地域は、市の中心部からは遠く、田畑の広がる米どころ。
- 山・田畑に囲まれた施設周辺は、近年は人口が減り、農業の担い手が不足し、空き家が増加。
- 栗東市には、様々な想いでまちづくり活動や地域活動に取り組む主体が多い。地域活動に取り組む主体同士の相乗効果を生み出す場を通じて、地域の活性化を目指す。

●事業のコンセプトなど

【コンセプト】

- 障害者と施設スタッフが農業を営み、集落に繰りだし、近隣の農業も手助けしながら、地域の人々と相互の協力関係を築き、「農」と「食」を基軸に地域を元気にする。

【地域との関わり】

- 団体のスタッフだけでできる取り組みには限界があるため、関係人口を増やすことを通じて、集落の活性化に寄与することを目指す。
- 日頃の行き来のなかで地域の人が気軽に「あるきだす」を訪れるような関係性を目指す。

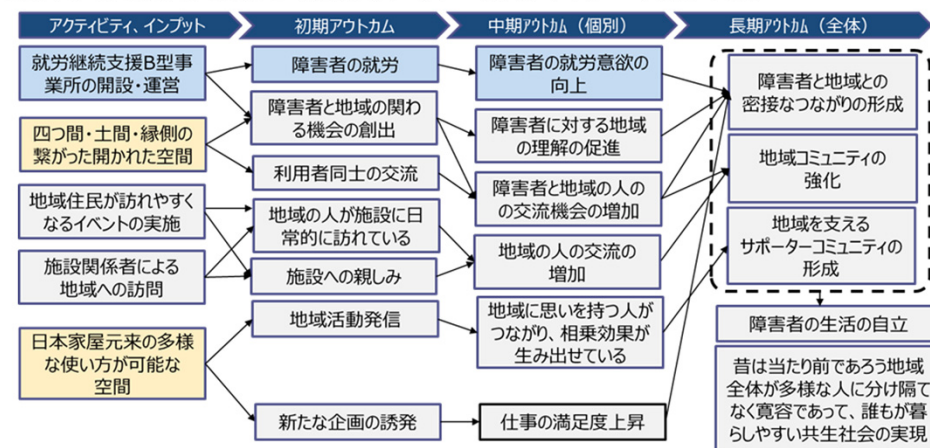
障害のある利用者だけでなく、地域の人が「あるきだす」で自由な活動に取り組んでいくようになって欲しいです。レンタルスペースではとしてではなく、一緒に建物や取り組みを作ってくれる人と使っていきたいです。

担当者の声



●ロジックモデル

- 利用者、地域住民、従業員の行動変容を通じて長期アウトカムの発現を目指す



●実現した効果

【アンケート調査】

利用者

以前より外の人と関わる機会は増えた

66.7%

居心地が良い場所であると感じる

83.3%

地域住民

「あるきだす」で障害のある方との交流機会が増えた

71.1%

住民同士が多様性を認め合える

47.4%

従業員

以前より外の地域住民と日常的な関わりは増えた

100%

以前より前向きに行事やイベントに関わる

66.7%

【定性的な効果】

- 定期的に地域活動やイベントを開催。県内や京都府など、広域からの縁活の福祉事業をサポートする来訪者と近隣住民が交流する機会となっている。



●総括

【障害者と地域の人の交流機会の増加、障害者への理解の促進】

- 利用者と地域との関わりは、いずれも半数以上が日常的またはときどき関わる機会があると回答。地域住民の「あるきだす」ができたことによる障害者との交流機会については約7割が前向きに回答。双方に一定の関わりが生まれていると評価できる。

【地域の人の交流の増加】

- 調査時点では実際に施設を頻繁に訪れている住民は1割程度にとどまったが、施設への気軽な行きやすさに対しては約8割が前向きに回答している。

【仕事の満足度上昇】

- 従業員の、やりがい、やりたい仕事に取り組んでいるか、イベントへの参加状況及び意向等について、いずれも前向きな回答が得られた。